

ている関係機関や団体等を紹介するなどの支援活動を行うとともに、犯罪被害者保護制度について分かりやすく説明したパンフレットを検察庁等に備え付けるなどの支援業務を行った。

また、被害者等に対する不起訴事件記録の開示についても弾力的な運用を図った。

#### イ 交通事故被害者等の声を反映した講習等の推進

運転免許に関する各種講習において、被害者等の手記集やビデオを活用するほか、被害者等の講話を取り入れるなどにより、講習において被害者等の

声を反映させ、交通事故の悲惨さを受講者に効果的に理解させる施策の推進を図った。また、被害者等の手記を取りまとめた資料等については、交通安全推進団体等にも配布し、交通事故の悲惨さの紹介に努め、交通事故の惨状等に関する国民の理解増進を図った。

#### ウ 交通事故被害者サポート事業の実施

交通事故被害者の自立を支援する立場にある者の技術を向上させるとともに、交通事故被害者の自助グループに対する支援を行う「交通事故被害者サポート事業」を実施した。

## 第8節 研究開発及び調査研究の充実

### 1 道路交通の安全に関する研究開発の推進

#### 内閣府本府の調査研究

国民の交通安全に対する理解を深めるとともに、今後の交通安全対策の重点化・効率化を図るため、交通事故の被害・損失の経済的分析に関する調査研究を実施した。

#### 警察庁関係の研究

#### ア 高度道路交通システム（ITS）に関する研究開発の推進

##### ア 信号制御の高度化

現行の信号制御方式に代わり、個々の信号機において、交差点に到達する交通流を予測して制御するプロファイル信号制御方式について、モデル事業として大規模エリア及び小規模エリアを選定し中央装置及び端末装置の整備を行い、プロファイル信号制御の全国整備に向けたシステム整備の在り方についての検証を推進した。

##### イ 安全運転の支援

交通管制システムのインフラ等を利用して、運転者に対し、周辺の交通状況等をカーナビゲーション装置を通し視覚・聴覚情報により提供することで危険要因に対する注意を促し、ゆとりを持った運転ができる環境を創り出すことにより、交通事故の防止等を図る安全運転支援システム（DSSS）の研究開発を推進した。

##### ウ 光ビーコンの有効活用

更に高度な交通管理を行うため、光ビーコンを活用した自動車からの情報（プローブ情報）を収集するシステムなど、光ビーコンの有効活用に対する研究開発を推進した。

#### イ 歩行者用反射材用品の交通事故防止効果に関する研究

反射材付きの衣服や靴等に貼付する反射シートなどの歩行者用反射材用品の交通事故防止効果を明らかにするため、反射材の種類・取り付け位置等が運転者の視認距離に及ぼす影響、歩行者用反射材用品の利用実態と夜間事故の関連性についての研究を実施した。

#### ウ 運転者の認知能力の評価方法に関する研究

様々な道路交通環境における高齢運転者等の認知、判断等の運転能力の評価機器開発のため、平常時及び異常時を想定した環境における運転者の心身特性についての研究を実施した。

#### エ ITS関連の車載機器に対する習熟が安全運転に及ぼす影響に関する研究

ITS関連の車載機器の使用に関する運転者への教育・指導、また、規制の必要性を検討する資料を得るため、機器に対する習熟の過程を人間工学的視点からの研究を実施した。

#### オ 聴覚刺激が運転に与える影響に関する研究

運転中に聴覚刺激が与えられた場合の運転行動の変化を調べ、聴覚刺激が運転中の危険回避に及ぼす

影響を分析し、安全運転上の問題点の研究を実施した。

#### 力 高齢運転者対策の高度化に関する調査研究

高齢者講習を始めとする諸対策の高度化を図るため、高齢者講習等の効果を検証するとともに、効果的な高齢運転者教育の手法、内容等の調査研究を実施した。

#### キ 貨物自動車の運転に係る運転者再教育の在り方についての調査研究

現在普通免許を保有している者が、車両総重量8トンまでの貨物自動車を運転する際の安全対策の徹底を図るため、貨物自動車の運転に係る効果的な運転者再教育の手法、内容等の調査研究を実施した。

#### ク 運転適性検査の在り方に関する調査研究

運転適性検査及びこれを用いた運転者教育の高度化を図るため、運転適性検査に求められる機能、これを用いた安全教育の手法等の研究を実施した。

#### ケ 睡眠障害と安全運転に関する調査研究

睡眠障害を有する運転免許保有者の実態、睡眠障害を有する運転者による交通事故の実態を明らかにし、講ずべき施策について検討するため、調査研究を実施した。

#### 総務省関係の研究

総務省としてユビキタスITSの研究開発を推進している中、独立行政法人情報通信研究機構において、歩路車の情報融合により事故削減を目指す電子タグを用いた歩車間通信、ユニバーサル化による高齢者・障害者の移動支援、ミリ波ITS情報通信技術による安全運転支援の研究開発を行った。また、民間の能力を活用して狭域通信による車車間通信/路車間通信、テレマティクス高度化、地上デジタル放送による交通情報配信といった各種技術の研究開発も行った。

#### 文部科学省関係の研究

独立行政法人防災科学技術研究所において、冬期における道路交通の確保等に資するため、吹雪、雪崩等の雪氷防災に関する研究を行った。

#### 経済産業省関係の研究

今後のITS重点サービス実現のために重要なITS情報通信基盤、及び情報収集・活用基盤などの車載

機器・システムに係る共通基盤構築に向けて、ISO/TC204等における規格化検討、国際規格化提案を支える調査研究を行うとともに、ITS技術の国際標準化を図るため、国内、海外において国際規格化活動を実施した。

#### 国土交通省関係の研究

##### ア 国土交通本省の研究

##### ア 道路管理の情報化

道路管理の効率化や交通の信頼性確保の観点からの情報化を推進した。地理情報システム(GIS)の標準化動向を見極めつつ、道路関係データの形式の統一化、データベースの整備など道路交通全般にわたり共通して道路情報を効率的に利用、提供できる環境整備を推進した。また、特殊車両等の適切な管理を行うため、通行許可申請等の電子化や通行経路・車両諸元の把握などを行うシステムの開発を行った。

##### イ 公共交通の支援

標準データフォーマットを活用したバス総合情報システムの高度化を図るため、共同運行路線における複数事業者のバス情報を統合し、一つのサイトで情報提供する実証実験を通じて情報化を推進した。

##### ウ 安全運転の支援

自動車単体では対応できない事故への対策として、車両が相互に自車の速度、位置等の情報を交換して利用し、安全運転を支援する技術(車車間通信)等の実現に向けて産・官・学が連携し研究開発等を行った。また、第3期先進安全自動車(ASV)推進計画が終了し、実用化されたASV技術の本格的な普及と通信利用型安全運転支援システムの一部実用化を目指し、平成18年度から第4期ASV推進計画を開始した。

##### イ 国土技術政策総合研究所の研究

##### ア 高度道路交通システムに関する研究開発

ITを活用し、人・車・道路のコミュニケーションによって、より安全で快適な移動を支援するため、各種ITSサービスの研究開発を進めるとともに、システムの共通的な基盤の構築、国際標準化活動の支援等を積極的に推進した。

##### 道路交通情報収集提供の高度化

道路交通情報通信システム（VICS）等を活用し、渋滞情報や所要時間情報などの道路交通情報の収集・提供の高度化を図った。また、ノンストップ自動料金支払システム（ETC）の無線通信技術（DSRC：狭域専用通信）を活用して道路交通情報の提供などの多様なサービスを一つの共通車載器で効率的に提供するための研究開発を推進し、平成19年に実現することを目指すこととしている。

#### 安全運転の支援

ドライバーの安全運転を支援するため、走行支援道路システム（AHS）の早期実用化を目指し、の共通車載機、ETC通信技術やデジタル道路地図などを活用した安全運転支援に関する研究開発を推進した。

#### システムの共通的な基盤(プラットフォーム)の構築

システムの構築に当たり、ITSシステムの全体像（アーキテクチャ）に基づき、ITSを構成するシステム間の互換性を確保するために必要な道路管理者間の通信規約（プロトコル）等の基準類を整備し、全体として有機的に連携した統合的なシステムを効率的に構築した。

#### 国際標準化活動の支援等

ITS世界会議等の国際会議や二国間レベルでの情報交換を行うなど、国際的な視野からの取組を推進した。また、国際標準化機構（ISO）の国際標準化活動に対して支援を行い、日本のシステムの国際標準化を図るとともに、既存国際標準との整合を図った。

#### イ 道路空間の安全性向上に資する研究

交通安全対策のより効果的、効率的な実施に資するために、交通安全対策の工種別効果分析に基づいて対策実施箇所の状況に応じた「効果的な対策工種選定方法」に関する研究、「面的安全対策」に関する研究、先進諸外国の動向を踏まえた「交通安全に関する施策・マネジメント」に関する研究、ヒューマンエラー抑制の観点からの「道路・沿道環境の在

り方」に関する研究を推進した。

#### ウ 気象庁気象研究所等の研究

道路交通の安全に寄与する気象情報等の精度向上を図るため、気象庁気象研究所を中心に、気象・地象・水象に関する基礎的及び応用的研究を行っている。主な研究は、以下のとおりである。

#### ア 上陸台風の構造変化過程とそれに伴う暴風、豪雨、高潮の発生に関する研究

台風及びそれに伴う暴風、豪雨、高潮の予測精度向上のため、日本に接近・上陸する台風の移動、強度、構造変化過程の研究及び台風の構造変化と暴風、豪雨、高潮の発生との関連性の研究を行った。

#### イ 非静力学モデル（NHM）の高度化と同化技術の改善に関する研究

局地的豪雨等をより精度よく予測するため、非静力学モデルの高分解能化及びそれを用いた同化実験の改善、地形の影響による集中豪雨の再現実験等に関する研究を行った。

#### ウ 東海地震の予測精度向上及び東南海・南海地震の発生準備過程の研究

数値シミュレーション手法の高度化による東海地震の予測精度向上及び新たな観測・監視手法の開発による東南海・南海地震の監視体制の強化に関する研究を行った。

#### エ 独立行政法人交通安全環境研究所の研究

#### ア 自動車の側面衝突時の乗員保護性能に関する調査研究

車高の高いSUV等が車高の低い一般乗用車に衝突した場合の乗員傷害を軽減することを目的として、現行の側面衝突試験法の改善のための衝突実験及び検討を実施した。

#### イ 急制動時の倍力装置（ブレーキアシスト）に係る基準策定のための調査研究

緊急制動が必要な時にドライバーが十分な力でブレーキを踏み込めない場合に自動的にブレーキ力を増加させる運転支援システムであるブレーキアシストについて、実車やドライビングシミュレータを用

いてシステムの機能・性能，ドライバーの操作特性等について実験・検証し，基準案の検討を行った。

#### ウ 歩行者保護性能に係る基準策定のための調査研究

自動車の歩行者保護性能に係る基準を策定することを目的として，歩行者脚部インパクト試験法及び，歩行者保護GTR案の検討等を行った。

#### エ 事故分析と対策の効果評価を踏まえた車両安全対策のロードマップ策定調査

事故分析結果及び対策の効果評価の結果等を総合的かつ定量的に評価するため，交通量，自動車の特性及びドライバー特性も考慮した評価手法の開発を行うため，実車やシミュレーターを用いた実験を行うとともに交差点等での実地観測を行った。

#### オ 独立行政法人土木研究所の研究

#### ア 積雪寒冷地における道路・舗装構造等に関する研究

冬期路面对策として，摩擦係数を用いた路面状態評価等の冬期路面管理手法の検討及び凍結時の滑りを抑制する舗装技術等の路面凍結対策技術の検討を行った。また，北海道の地域特性に適した規格の高い道路の構造等や排水性舗装について検討を行った。

#### イ 北海道における重大事故防止に関する研究

北海道特有の郊外部重大事故や積雪寒冷な気象条件に起因する交通事故について交通事故分析システムによる要因分析を実施し，ランブルストリップの普及や多様化のための試験施工等を行うとともに，視程障害時におけるドライバーの運転挙動及び道路・気象情報提供の在り方に関する基礎試験・検討を行った。また，苛酷な気象条件下における防雪施設の有効性及び多量降雪時の新雪雪崩対策の検討を行った。

#### ウ 北海道における道路関連情報の高度活用に関する研究

積雪寒冷地における高度道路情報システムへのXML技術の活用方法について検討を行った。ま

た，積雪寒冷地に適した情報提供技術の検討を行った。

#### エ 冬期道路における人の挙動に配慮した技術に関する研究

冬期歩行空間における凍結路面管理水準等に関する文献・アンケート調査等を行った。

## 2 道路交通事故原因の総合的な調査研究の充実強化

国土交通省においては，科学的な分析に基づく事故対策を推進するため，交通事故対策・評価マニュアル及び交通事故対策事例集を作成し，個別の事故対策の立案・実施に活用した。

また，道路交通法の交通事故調査分析センターの指定を受けている交通事故総合分析センターは，官民それぞれが実施する交通安全対策をより一層効果的なものとし，安全で快適な交通社会の実現に寄与するため，交通事故と人・道・車に関する各種の分析・調査研究を行った。

同センターでは，交通事故，運転者，道路，車両等に関する各種データを統合したデータベースを作成し，幹線道路において事故が多発している地点を抽出するなど，交通安全対策に直結する多角的な統計分析を行った。

交通事故の原因をより総合的かつ科学的に検討するために，主に茨城県つくば市及び土浦市周辺で，実際の交通事故現場への臨場や医療機関との連携による事故例調査を実施し，マクロ（巨視的），ミクロ（微視的）両面からの総合的な交通事故分析・調査研究を進めた。

また，平成18年度には，四輪運転者の世代別分析など活発な調査研究活動を展開した。

なお，同センターの調査研究の成果は，それぞれ報告書としてまとめられ公表されるほか，小冊子「イタルダ・インフォメーション」として関係機関・団体に配布され，広く一般に紹介されるなど交通安全意識の高揚に貢献している。

#### ランブルストリップス

道路区画線に沿って凹型のくぼみを連続して配置し，これを踏んだ車両に不快な振動や音を発生させ，車線を逸脱したことを警告する交通事故対策。